

## 〔国際会議発表〕

発表研究者	北海道大学病院 循環器内科 医員 相川 忠夫	2172101
参加会議	米国心臓協会学術集会 (AHA 2017)	
出張期間	2017年11月11日～11月16日	
開催場所	アナハイム・USA	
発表論文	Coronary Revascularization Can Ameliorate Low Coronary Flow Reserve in Patients With Coronary Artery Disease 冠血行再建は冠動脈疾患患者における冠血流予備能低下を改善できる	

## 概 要：

米国心臓協会学術集会は、毎年2万人近くの参加者が集う世界最高峰の循環器病学会で、循環器病学に関する最新の知見が多数発表される。本学会で自身の研究成果を発表し、一流の研究者から助言を貰う機会を得ることで、今後さらに研究を進展させることを目的とした。

今回、生体内の血流や代謝に関する情報を非侵襲的に計測可能な先端医療機械であるポジトロン断層撮像法 (PET) を用いて、冠動脈疾患患者に対する冠血行再建の治療効果を定量した研究成果について発表した。心筋への血流量を定量するには生体内 (冠動脈) にカテーテルを挿入して測定する方法が普及しているが、PET を用いることで計測時の侵襲性を減らし、検査時間も30分以内に短縮できるため、患者の身体的・心理的負担を軽減できる。心疾患の早期診断や治療効果判定を PET で行うことは「人間と機械の調和を促進」する。発表には多くの質問があり、有名な研究者から直接アドバイスを頂く機会にも恵まれた。また同じ分野で研究している海外研究者の研究成果も大変参考になった。今後もさらに本研究を進展させ、臨床応用を目指している。